

2013年(平成25年)

8月3日

土曜日

土用二の丑

経済9.11面
 国際13面
 金融情報16.17面
 スポーツ18.19.20面
 囲碁・将棋22面/教育25面
 小説26面/生活26.27面
 妖怪楽園28面
 地域30.31面
 TV・ラジオ22.23.36面

朝日新聞大阪本社

発行所:〒530-8211大阪市北区中之島2-3-18
電話:06-6231-0131 www.asahi.com



2013年(平成25年)8月3日 土曜日 第1頁

病院の抗がん剤暴露防止

近大とベンチャー開発



抗がん剤を調製する際の医師や薬剤師らへの暴露を防止する機器を、大阪府東大阪市のベンチャー企業と近畿大学の研究グループが共同開発した。一定の濃度、湿度に制御されたオゾンガスにさらすと、抗がん剤が分解することを突き止めた。医療機関向けに量産化を目指す。化学物質などの除染機器を製造するタムラテコと近大薬学部

の石渡俊二准教授が開発した。抗がん剤はがん細胞の分裂を抑えるほか、細胞内の遺伝子の働きを抑える効果がある。この

オゾンガスで分解

ため、正常な細胞にも影響する可能性があり、発がん性などの危険性も指摘されている。医療従事者は抗がん剤の調製、投与時などに触れる恐れがあり、尿から抗がん剤が検出された例もある。

空気中に飛散した抗がん剤を吸ったり、手についた抗がん剤が口や目から体内に入ったりする恐れもあり、現在はマスクやゴーグルなどを着用したうえで、安全キャビネットと呼ばれる装置内で調製している。

開発した機器は、調剤室や安全キャビネット内にオゾンガスを噴出する装置と、濃度と湿度を制御する装置からなる。抗がん剤「フルオロウラシル」を使った実験では、2時間後に、ほとんどが分解されたという。

オゾンには細菌やウイルスなどを除去する作用もある。オゾンの発生装置は事故や災害への備えのほか、新型インフルエンザや口蹄疫などへの対策として消防・緊急車両にも装備されている。(編集委員・多賀谷克彦)